

広島・郡山城下町遺跡

こおりやまじょうかまち

- 1 所在地 広島県高田郡吉田町大字吉田字下迫
- 2 調査期間 一九九三年(平5)九月～一九九四年三月
- 3 発掘機関 財広島県埋蔵文化財調査センター
- 4 調査担当者 伊藤公一・川崎真二
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(八雲・可部)

郡山城下町遺跡は、広島県の北部中央の高田郡吉田町に位置し、広島市街地の北東約四五km、三次市街地の南西約二六kmの距離にある。

吉田盆地は可愛川と多治比川によって育まれた沖積地に形成され、可耕地や住宅地と商・工業地が密集して街の中心を成している。遺跡は、国道五四号線と主要地方道吉田・瑞穂線の結節点にほど近く、標高は

約二〇三m前後である。南側で行なわれた一九九〇～一九九一年度の調査では、古代の条里制に関わる溝状遺構や掘立柱建物を検出している。遺跡の北側には郡山が聳え、戦国大名毛利氏の本拠地として著名である。

今回の調査は、吉田郵便局庁舎新築工事に伴うもので、調査面積は約二八〇〇㎡である。調査の結果・石敷や石組遺構・礎石建物・掘立柱建物・集石土坑・自然流路・溝状遺構・排水用の暗渠などを検出した。

出土遺物には、土師器・須恵器・土師質土器・陶磁器(輸入青白磁を含む)の他、木簡・ササラ棒・漆器碗(二点)・犁の柄・下駄・曲物・瓦などがある。

古代の遺物が出土した自然流路・溝状遺構を除き、他の遺構の成立・存続した時代は、中世末～近世中頃と思われる。

木簡は、自然流路の埋土上層から約二五cm下の第三層内から出土した。第三層は、黒褐色粘質土の中に砂粒を多く含む層で、土層観察の結果、第四層との境に凹凸が見られることから、水流がかなりあったものと考えられる。木簡は二片に分離して出土し、出土時に上側になっていた面の腐蝕が著しい。第三～四層の遺物は、堆積状況からみて流れ込んだものと考えられ、多数の木片のほか八～九世紀の須恵器片が出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「

高宮郡司解

占マ連千足

□マ□麻呂□□□□

・□□

[葛カ] [直カ]

□木マ□子人占マ連千足海マ□口良□人

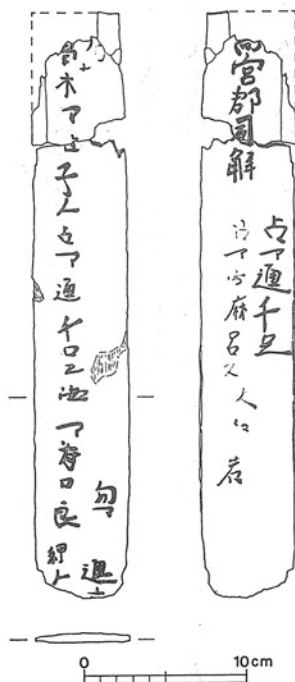
(356) × 57 × 6 019

[首カ]

[連カ]

上端の一部と下半を折損しているほか、腐蝕のため全てを判読することはできなかったが、五名の人名が確認できた。また表側に「解」の文字が判読できたことから、奈良〜平安時代の上申文書であると考えられる。しかし、下半部が折損しており、詳細な内容は不明である。

当該地域はこれまで高宮郡衙推定地と考えられてきた。今回出土



した木簡は、書式からいえば安芸国府へ充てたものといえるが、この地が国府とは考えがたいため、文書木簡の控えとすべきであろう。「高宮郡司」と墨書された木簡の出土によって、さきの推定を裏付ける良好な資料を得ることになった。

なお、木簡の釈読に際しては、奈良国立文化財研究所史料調査室の方々並びに広島大学の西別府元日氏よりご教示を得た。

(伊藤公一)

